

大学等名	江戸川大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件

メディアコミュニケーション学部(マス・コミュニケーション学科、情報文化学科、こどもコミュニケーション学科)

- ③ 修了要件

マス・コミュニケーション学科、情報文化学科2022年度以降入学者、**こどもコミュニケーション学科2023年度以降入学者**「データサイエンス概論」を履修すること。
こどもコミュニケーション学科2022年度**以降**入学者「情報リテラシーI」「情報リテラシーII」「こどもコミュニケーション論」を履修すること。

必要最低単位数 単位 履修必須の有無

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス概論	2		○	○					
情報リテラシーI	2		○	○					
こどもコミュニケーション論	2		○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス概論	2		○	○					
情報リテラシーI	2		○						
こどもコミュニケーション論	2		○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス概論	2		○	○					
情報リテラシーI	2			○					
こどもコミュニケーション論	2		○						

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス概論	2		○	○					
情報リテラシーI	2		○	○					
こどもコミュニケーション論	2		○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論	2	○		○	○						
情報リテラシーII	2	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報リテラシーII	4-3データ構造とプログラミング基礎		
アルゴリズム	4-1統計および数理基礎		
アルゴリズム	4-2アルゴリズム基礎		
プログラミング基礎	4-3データ構造とプログラミング基礎		
データベース I	4-7データハンドリング		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・社会で起きている変化(データ駆動型社会・Society5.0)、データに関する基礎的な知識(情報量の単位、二進数、文字コード等)「データサイエンス概論」(1回目) ・数理・データサイエンス・AIによる社会の変化(Society5.0、ビッグデータ、IOT等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目) ・ネットワーク、ビッグデータ、AI活用が進む社会における課題、「情報リテラシー I」(2回目)
	1-6 ・データ・AI活用の最新動向、AIを活用した新しいビジネスモデル、AIに関する最新技術(シェアリングエコノミー、レコメンデーション等)や、さまざまなAI技術要素(深層ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワーク、変分オートエンコーダー、潜在空間、敵対的生成ネットワーク(GAN)、強化学習、転移学習)、「データサイエンス概論」(7回目) ・データ・AI活用の最新動向(保育現場での利活用等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目) ・ネットワーク、ビッグデータ、AI活用が進む社会の動向、「情報リテラシー I」(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・社会で活用されているデータ(ビッグデータ)、「データサイエンス概論」(2回目) ・ビッグデータの活用、「情報リテラシー I」(2回目) ・数理・データサイエンス・AIにおいて活用されるデータ(ビッグデータ、ログデータ、構造化データ、非構造化データ等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目)
	1-3 ・新たな技術の進展によって起こる様々な分野でのデータとAIの活用領域の広がり、データを活用した一連のプロセスの体験、様々な領域(仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定・判断支援・活動代替等)でのデータサイエンス活用、「データサイエンス概論」(3回目) ・データとAIの活用領域(医療、介護、交通、防災、子育て支援等)、「こどもコミュニケーション論」(14回目)
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・様々なデータ解析の具体的内容、データサイエンス概論(4回目) ・様々なデータ可視化の方法(可視化目的(比較、構成、分布、変化など)に応じた図表化の判断や、1次元、多次元の可視化方法として、各種グラフ(棒グラフ、折れ線グラフ、積み上げ棒グラフなど)や散布図、散布図行列の他、関係性の可視化をするネットワーク)やAIの歴史と現状(推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステムに対応したAIや、汎用AI/特化型AI(強いAI・弱いAI)、フレーム問題)、「データサイエンス概論」(5回目) ・データ・AI活用のために用いられている技術(AIとビッグデータ、非構造化データ処理、認識技術、パターン発見等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目)
	1-5 ・データ・AI活用の現場(データ分析による意思決定(現状分析と課題抽出、仮説と予測モデルの作成、予測モデルの分析)や、AI活用事例(製造、公共、インフラなど))、「データサイエンス概論」(6回目) ・データ、AIの活用の事例研究と課題考察、「情報リテラシー I」(7回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI, 個人情報, データ倫理, AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AIを扱う上での留意事項(AI倫理、AIの社会的受容性の他、AIに関する原則やガイドライン、AIの説明可能性、トラスト(信頼性)、公平性)、「データサイエンス概論」(13回目) ・データ・AI活用における倫理とセキュリティ(ネットワーク上の情報活用とセキュリティ、ネットワーク上に潜む危険と対策、デジタル時代の著作権と教育的利用)、「情報リテラシー I」(7回目) ・データ・AIを扱う上での留意事項(ELSI等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項(情報セキュリティ(機密性・完全性・可用性)等)や情報漏洩等によるセキュリティ事故、「データサイエンス概論」(14回目) ・データの保護(OECDプライバシー8原則等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目) ・教育機関における個人情報の適切な取り扱い及び個人情報の問題の事例研究、「情報リテラシー I」(2回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類、データの代表値とばらつきの指標、打ち切りや脱落、「データサイエンス概論」(8回目) ・複数のデータの関連性を捉える方法、「データサイエンス概論」(9回目) ・統計データの扱いと読み取り(データベースの基礎、データの種類、データの抽出等)、「情報リテラシー II」(5回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データをグラフや図(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、積み上げ棒グラフ、箱ひげ図、ヒートマップ、等)を使って分かりやすく表現する方法、データを比較する方法(条件をそろえた比較、処理の前後での比較等)、実際の可視化事例や不適切なグラフ表現、「データサイエンス概論」(10回目) ・統計データの扱いと読み取り(実データの視覚的表現と説明、データの読み取りと解釈)、「情報リテラシー II」(6回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット(SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、データの集計、並び替えを学ぶ、「データサイエンス概論」(11回目) ・統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット(SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、ヒストグラムや散布図の描き方を学ぶ、「データサイエンス概論」(12回目) ・統計データの扱いと読み取り(実データの並び替え、検索、抽出等)、「情報リテラシー II」(5回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できる。

教員名	松尾由美 (T-0504)、八木 徹 (D-0103)、山口 敏和(T-0603)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2023年度	科目名	データサイエンス概論				
学期※2	2023年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分(授業形態)	集中講義		
副題							
授業の概要	<p>包括的な目標：今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることを目指します。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目標とします。</p> <p>内容：上記の目標を達成するため、この科目では、以下の3つのセクションについて学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会におけるデータ・AI利活用（第1・2回(対面)、第4~8回(オンデマンド))：社会のさまざまな領域でデータ・AIが活用され、新たな価値が生み出されていることを学び、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する 2. データリテラシー（第9回~第13回）：データを適切に読み解いたり、説明する力を養う 3. データ・AI利活用における留意事項（第3回(対面)・第9回(オンデマンド))：データ・AIを利活用する上で知っておくべきことについて学ぶ <p>この科目は、集中講義(後期)として開講され、第1~3回は9月の、第10~14回は12月の集中講義期間に開講する予定です。開講スケジュールを事前によく確認すること。第4~9回はオンデマンド授業として実施します。教材(動画・資料等)の共有、課題の提出、小テスト等にGoogleClassroomを使用します。</p>						
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「(1)知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」「(2)教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマポリシーに関連し、「1：社会におけるデータ活用」において、データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できること、さらに、「3：データ・AI利活用における留意事項」において、データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)や個人のデータを守るために留意すべき事項について理解することを到達目標とする。</p> <p>さらに、メディアコミュニケーション学部の「(4)コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる」というディプロマポリシーに関連し「2：データリテラシー」において、データの比較対象を正しく設定したり、適切な可視化手法を選択することで、データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを理解したり、他者に説明できることを到達目標とする。</p>						

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>ガイダンス：社会で起きている変化(データ駆動型社会・Society5.0)(担当者：山口・八木・松尾)</p> <p>：データに関する基礎的な知識(情報量の単位、二進数、文字コード等)を学んだ上で、様々な領域でデータ・AIが活用されるデータ駆動型社会でどのようなことが起きているのか変化を理解する。また、データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶ意義を理解する。</p> <p>予習：教科書「1.1 社会で起きている変化」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分)</p> <p>復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第2回	<p>社会で活用されているデータ(担当者：山口)</p> <p>：ビッグデータはどういうものか理解を深め、社会で活用されている様々なデータについて学ぶ。</p> <p>予習：教科書「1.2 社会で活用されているデータ」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分)</p> <p>復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第3回	<p>データを守る上での留意事項/データを説明する(担当者：松尾)</p> <p>：セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項(情報セキュリティ(機密性・完全性・可用性)等)について情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例を紹介しながら学ぶ。データをグラフや図(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、積み上げ棒グラフ、箱ひげ図、ヒートマップ、等)を使って分かりやすく表現する方法やデータを比較する方法(条件をそろえた比較、処理の前後での比較等)について、実際の可視化事例や不適切なグラフ表現を見ながら、学修を深める。</p> <p>予習：教科書「2.2 データを説明する」「3.2 データを守る上での留意事項」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分)</p> <p>復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)(担当者：松尾・八木・山口)</p>
第4回	<p>データとAIの活用領域・データサイエンス活用事例(担当者：山口)【オンデマンド】</p> <p>：新たな技術の進展によって起こる様々な分野でのデータとAIの活用領域の広がりについて学ぶ。さらに、データを活用した一連のプロセスを体験しながら、様々な領域(仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定・判断支援・活動代替等)でデータサイエンスが活用されている流れを理解する。</p> <p>予習：教科書「1.3 データとAIの活用領域」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分)</p> <p>復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第5回	<p>データ・AI利活用のための技術(1)(担当者：山口)【オンデマンド】</p> <p>：様々なデータ解析の具体的内容について学ぶ。</p> <p>予習：教科書「1.4 データ・AI利活用のための技術(1.4.1~1.4.5)」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分)</p> <p>復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>

第6回	<p>データ・AI活用のための技術(2)(担当者:八木)【オンデマンド】 :様々なデータ可視化の方法やAIの歴史と現状について学ぶ。 可視化については、可視化目的(比較、構成、分布、変化など)に応じた図表化の判断や、1次元、多次元の可視化方法として、各種グラフ(棒グラフ、折れ線グラフ、積み上げ棒グラフなど)や散布図、散布図行列の他、関係性の可視化をするネットワークなどについて学ぶ。AIの歴史としては、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステムに対応したAIや、汎用AI/特化型AI(強いAI・弱いAI)、フレーム問題などについて学ぶ。 予習:教科書「1.4 データ・AI活用のための技術(1.4.6~1.4.9)」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習:授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第7回	<p>データ・AI活用の現場(担当者:八木)【オンデマンド】 :データ・AIを活用することでどのような価値が生まれ、そのような価値を生むために何に気を付けるべきかを学ぶ。 データ分析による意思決定(現状分析と課題抽出、仮説と予測モデルの作成、予測モデルの分析)や、AI活用事例(製造、公共、インフラなど) 予習:教科書「1.5 データ・AI活用の現場」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習:授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第8回	<p>データ・AI活用の最新動向/「社会におけるデータ・AI活用」のまとめ(担当者:八木)【オンデマンド】 :AIを活用した新しいビジネスモデルや、AIに関する最新技術について学ぶ。シェアリングエコノミー、レコメンデーション等や、さまざまなAI技術要素(深層ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワーク、変分オートエンコーダー、潜在空間、敵対的生成ネットワーク(GAN)、強化学習、転移学習)について学修する。さらに本セッションについて振り返り、セッション課題に取り組む。 予習:教科書「1.6 データ・AI活用の最新動向」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習:授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第9回	<p>データ・AIを扱う上での留意事項/「データ・AI活用における留意事項」のまとめ(担当者:八木)【オンデマンド】 :AIでデータを扱う場合に留意すべきことやデータを保護するための現行の法制度の考え方について学ぶ。AI倫理、AIの社会的受容性の他、AIに関する原則やガイドライン、AIの説明可能性、トラスト(信頼性)、公平性について学修する。さらに本セッションについて振り返り、セッション課題に取り組む。 予習:教科書「3.1 データ・AIを扱う上での留意事項」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習:授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第10回	<p>データを読む(1)(担当者:松尾) :データの種類、データの代表値とばらつききの指標について学び、データ収集の際打ち切りや脱落など実際に発生する問題点について学ぶ。 予習:教科書「2.1 データを読む(2.1.1~2.1.6)」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習:授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第11回	<p>データを読む(2)(担当者:松尾) :複数のデータの関連性を捉える方法について学ぶ。 予習:教科書「2.1 データを読む(2.1.7~2.1.10)」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習:授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第12回	<p>データを扱う(1) :統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット(SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、データの集計、並び替えについて学ぶ。 予習:教科書「2.3 データを扱う」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習:授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第13回	<p>データを扱う(2)/「データリテラシー」のまとめ(担当者:松尾) :統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット(SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、ヒストグラムや散布図の描き方を学ぶ。さらに本セッションについて振り返り、セッション課題に取り組む。 予習:別のデータを使って、授業内で行った分析を行い、理解を深める。(100分) 復習:授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第14回	<p>まとめ(担当者:松尾、八木、山口) 3つのセッションの内容について振り返り、これまで提出されたセッション課題についてフィードバックを行う。 予習:これまで学修した内容を振り返り、不明な点や疑問点を整理し、ノートにまとめる。(100分) 復習:授業内のフィードバックを基に、各自取り組んだセッション課題を見直し、修正する。(100分)</p>
成績評価方法・基準	<p>毎回の課題(毎回の授業時に課される小テスト):60% 平常点(リアクションペーパー):10% セッション課題:30% を合計して評価する。授業中に行う小テストは、オンラインテストで行い、回答直後に正誤についてフィードバックする。さらに、間違いの多かった箇所について、次回の授業で解説を行う。 さらに、提出されたセッション課題の内容について、第14回にフィードバックを行う。 なお、コロナウィルスの感染状況により、オンライン授業となった場合にも、評価方法・基準に変更はありません。</p>

書名	著者	出版社	ISBN	備考
----	----	-----	------	----

教養としてのデータサイエンス	北川源四郎・竹村彰通（編）	講談社	978-4-06-523809-7	
参考書	松田稔樹・萩生田伸子（監修） 問題解決のためのデータサイエンス入門 実教出版 岡嶋裕史・吉田雅裕（共著） 基礎テキスト はじめてのAIリテラシー 技術評論社			
その他	連絡先：松尾由美 yumatsuo@edogawa-u.ac.jp / 八木徹 yagi@edogawa-u.ac.jp / 山口敏和 tyamaguc@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

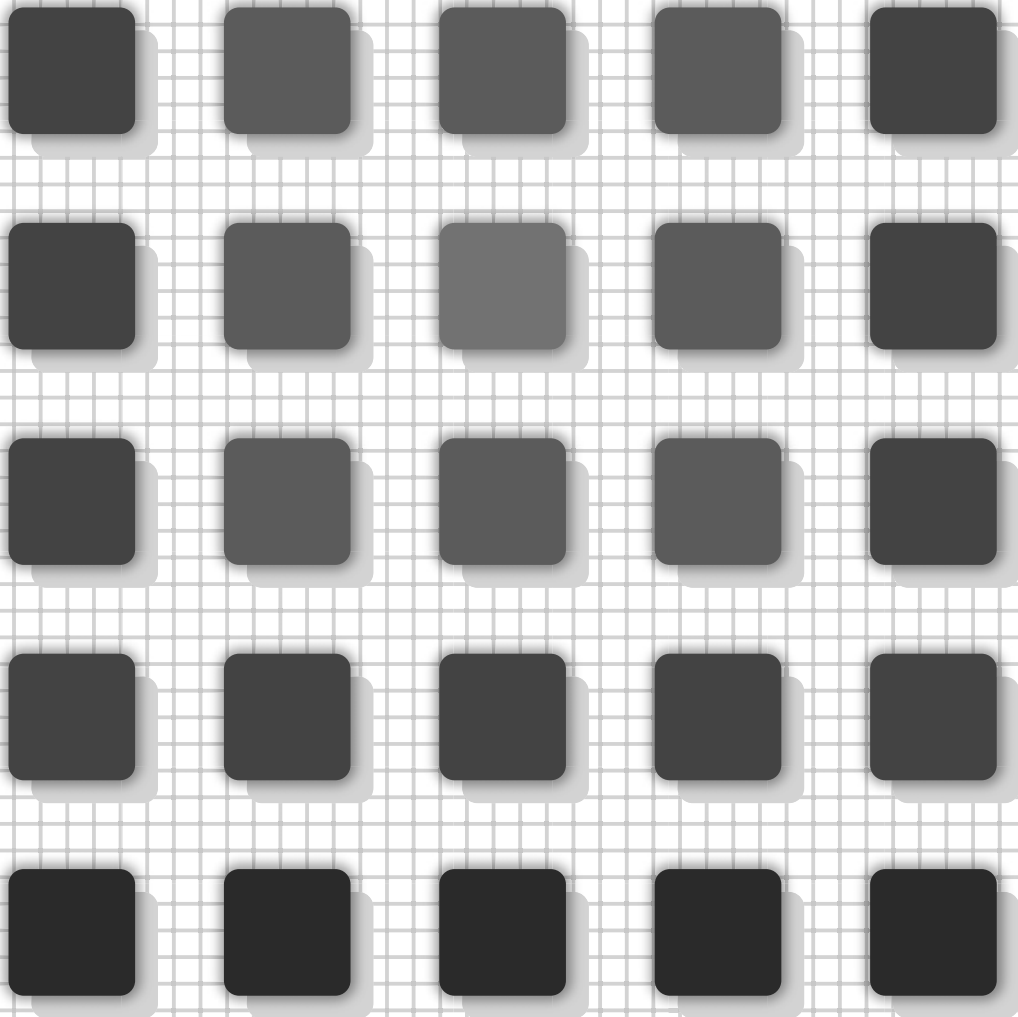
実務経験	
実務経験詳細	
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート / グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1) / メディアコミュニケーション学部(2) / メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

科目履修マニュアル

2023



EDOGAWA UNIVERSITY

④日本語系科目（外国人留学生のみ）

- ・2021年度以前の外国人留学生は「日本語Ⅰ～Ⅷ」から8単位を選択し、修得しなければなりません。
- ・2022年度以降入学の外国人留学生は、必修科目「日本語基礎Ⅰ・Ⅱ」「日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「日本語応用Ⅰ・Ⅱ」の8単位の修得が義務づけられています。これら科目および「日本語文型Ⅰ・Ⅱ」「日本語アカデミック基礎Ⅰ・Ⅱ」「日本語アカデミック応用Ⅰ・Ⅱ」「日本語キャリアデザインⅠ・Ⅱ」は外国人留学生のみ履修可能な科目です。日本語系科目は、外国人留学生以外の学生は履修できないので注意してください。
- ・必ず基礎ゼミの先生と相談の上、履修する科目を決めてください。
- ・履修科目の選び方や登録の方法については、留学生ポータルサイト「留学生サポート」の「日本語学習」にある「日本語科目履修登録」ページを確認してください。EDO-NETのアカウントでGoogleにログインした状態で、大学公式ウェブサイトの「国際交流」の「外国人留学生サポート」の一番下にある「留学生ポータルサイト」をクリックすると、「留学生サポート」にアクセスできます。

⑤基幹科目群（こどもコミュニケーション学科を除く）

- ・2016年度入学者は、基幹科目群の中から16単位以上の修得が義務づけられています。16単位を超えて修得した場合、超過分の単位は選択科目として計算されます。
- ・2017年度入学者は、基幹科目群の中から22単位以上の修得が義務づけられています。22単位を超えて修得した場合、超過分の単位は選択科目として計算されます。
- ・2018年度以降入学者は、基幹科目群の中から20単位以上の修得が義務づけられています。20単位を超えて修得した場合、超過分の単位は選択科目として計算されます。

⑥教養科目系（2022年度以降入学生・こどもコミュニケーション学科を除く）

2022年度以降入学者は、教養科目系の中から4単位以上の修得が義務づけられています。

⑦選択必修科目（現代社会学科 2018年度以降入学生、経営社会学科 2022年度以降入学生、

マス・コミュニケーション学科 2020年度以降入学生）

現代社会学科、経営社会学科、マス・コミュニケーション学科2群・3群科目に選択必修科目が設定されており、現代社会学科は8単位以上、経営社会学科はベーシック選択必修科目から8単位以上、専門選択必修科目から6単位以上、マス・コミュニケーション学科は2群科目から10単位以上、3群科目から6単位以上の修得が義務づけられています。それぞれ必要単位を超えて修得した場合、超過分の単位は選択科目として計算されます。

⑧選択科目

選択科目は、学生が自由に選択し、履修することのできる科目です。他学部・他学科選択科目の単位も選択科目の単位に含まれます。必要単位数は入学年度・学科により異なります。卒業要件の単位数をすべて含め、合計128単位以上（自由科目の単位は除く）となるよう選択科目の単位を修得してください。

⑨他学科選択科目（こどもコミュニケーション学科を除く）

他学部・他学科の1群・2群科目のうち、自分の学科で開講されていない選択科目を他学科選択科目といいます。他学科選択科目は単位互換科目と合わせて**在学中に40単位**（人間心理学科の学生は20単位、経営社会学科の2019～2020年度入学者は30単位、経営社会学科の2021年度以降入学者は24単位）の履修が上限となります。他学科選択科目を履修する際は、「他学科選択科目履修申請書」により、担当教員の許可を得てください。許可印をもらった申請書は各自保管してください。

また、他学科の3群科目は履修できませんので注意してください。

なお、2023年度以降入学のマス・コミュニケーション学科、情報文化学科の学生の中から選抜される「21世紀メディアパーソン育成プログラム」参加学生に限り、指定された他学科3群科目を履修することが可能となります。

※こどもコミュニケーション学科の2023年度以降入学者は、情報文化学科2群科目「データサイエンス概論」に限り他学科選択科目を履修することができます。2022年度以前の入学者は他学科選択科目を履修できません。

⑩自由科目（こどもコミュニケーション学科を除く）

自由科目は、資格科目などに配当されており、卒業及び進級に必要な単位数には含まれない科目をいいます。したがって、単位計算を行うときは注意を要します。キャップ制（※）の履修単位の上限値には加算されません。

別表第2 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科(2023年度入学生)

群	系列	科目名	年次	単位数			備考			
				必修	選択	自由				
1群	基礎学力系	アカデミック・スキル演習IA	1	2			※注1			
		アカデミック・スキル演習IB	1	2						
		アカデミック・スキル演習IIA	2	2						
		アカデミック・スキル演習IIB	2	2						
		情報リテラシー	1	2		2		※注2		
		情報リテラシー応用	1	2				※注3		
		英語系	英語系	英語I	1	2				※注4
				英語II	1	2				
				英語III	2	2				
				英語IV	2	2				
英会話I	1			2						
英会話II	1			2						
インテンシブ英語A-I(TOEIC)	1			4						
インテンシブ英語A-II(TOEIC)	1			4						
インテンシブ英語A-III(TOEIC)	1			4						
インテンシブ英語A-IV(TOEIC)	1			4						
英語系(GSP)	英語系(GSP)	海外研修英語I	1	2			※注5			
		海外研修英語II	1	2						
		語学研修(オセアニア)	1	4						
		語学研修(欧米)	1	4						
		Intensive English B-I(TOEFL)	1	4						
		Intensive English B-II(TOEFL)	1	4						
		English for Academic Purposes (Writing)	1	2						
		English for Academic Purposes (Presentation)	2	2						
		English Conversation I	1	2						
		English Conversation II	2	2						
英語系(GSP)	英語系(GSP)	English Conversation III	3	2			自由単位を除き、基幹科目群から20単位以上修得			
		Academic Reading I	1	2						
		Academic Reading II	2	2						
		Academic Reading III	2	2						
		Academic Reading IV	3	2						
		Study Abroad Preparation Seminar	2	2						
		Study Abroad Program	3	8						
		Study Abroad Program - Introduction	1		2					
		Study Abroad Program - Wrap Up	3		2					
		基礎科目群	基礎科目群	日本語基礎I	1	1				自由単位を除き、基幹科目群から20単位以上修得
日本語基礎II	1			1						
日本語コミュニケーションI	1			1						
日本語コミュニケーションII	1			1						
日本語応用I	2			2						
日本語応用II	2			2						
日本語文型I	1			2						
日本語文型II	1			2						
日本語アカデミック基礎I	1			2						
日本語アカデミック基礎II	1			2						
基礎科目群	基礎科目群	日本語アカデミック応用I	3	2			自由単位を除き、教養科目系から4単位以上修得			
		日本語アカデミック応用II	3	2						
		日本語キャリアデザインI	3	2						
		日本語キャリアデザインII	3	2						
		法学概論	1	2						
		経済学概論	1	2						
		政治学概論	1	2						
		人文地理学概論	1	2						
		自然地理学概論	1	2						
		哲学概論	1	2						
教養科目系	教養科目系	日本史概論	1	2			自由単位を除き、教養科目系から4単位以上修得			
		外国史概論	1	2						
		社会学概論I	1	2						
		社会学概論II	1	2						
		自然科学概論	1	2						
		生物学概論	1	2						
		日本思想概論	1	2						
		科学史概論	1	2						
		日本国憲法	1	2						
		国際社会と日本	1	2						
教養科目系	教養科目系	社会統計学I	2	2			自由単位を除き、教養科目系から4単位以上修得			
		社会統計学II	2	2						
		社会調査法I	1	2						
		社会調査法II	1	2						
		社会調査演習	2	4						
		韓国語I	1	2						
		韓国語II	1	2						
		中国語I	1	2						
		中国語II	1	2						
		フランス語I	1	2						
教養科目系	教養科目系	フランス語II	1	2			自由単位を除き、教養科目系から4単位以上修得			
		異文化コミュニケーション	2	2						
		多文化理解	1	2						
		アジア・オセアニアの文化	1	2						
		異文化理解研修	1	4						
		スカラシップ	1		6					
		海外体験研修(東南アジア)	1	2						
		海外体験研修(東アジア)	1	2						
		長期海外研修(オセアニア)	1		12					
		長期海外研修(欧米)	1		12					
教養科目系	教養科目系	情報社会とメディア	1	2			自由単位を除き、教養科目系から4単位以上修得			
		情報基礎演習	1	2						
		情報活用論基礎	1	2						
		情報活用論応用	1	2						
		情報活用演習	1	2						
		アカデミック・スキル演習IA	1	2						
		アカデミック・スキル演習IB	1	2						
		アカデミック・スキル演習IIA	2	2						
		アカデミック・スキル演習IIB	2	2						
		情報リテラシー	1	2		2				
情報リテラシー応用	1	2								
1群	基礎学力系	健康・スポーツ科学	1	2			卒業所要単位: 必修36単位、選択92単位以上(英語系・英語系(GSP)4単位以上、教養科目系4単位以上、基幹科目群20単位以上(必修8単位、英語系・英語系(GSP)4単位以上、教養科目系4単位以上を含む)を含む)、合計128単位以上 外国人留学生は、必修40単位、選択88単位以上(教養科目系4単位以上、基幹科目群20単位以上(必修12単位、教養科目系4単位以上を含む)を含む)、合計128単位以上 自由科目の単位は卒業単位には含まれないので注意すること ※注1 外国人留学生は「アカデミック・スキル演習IA」、「アカデミック・スキル演習IB」、「アカデミック・スキル演習IIA」及び「アカデミック・スキル演習IIB」は履修不可、「情報リテラシー」及び「情報リテラシー応用」の単位を必修とする ※注2 外国人留学生以外は自由科目、外国人留学生は必修科目として扱う ※注3 外国人留学生のみ履修可、必修科目として扱う ※注4 英語系・英語系(GSP)から4単位以上を修得すること(外国人留学生を除く) ※注5 外国人留学生のみ履修可			
		健康・スポーツ科学演習	1	4						
		地域ボランティアプログラムA	1	2						
		地域ボランティアプログラムB	2	2						
		地域ボランティアプログラムC	3	2						
		文学基礎論I	2	2						
		文学基礎論II	2	2						
		人間学演習I	1	2						
		人間学演習II	1	2						
		国語表現I	1	2						
国語表現II	1	2								
1群	基礎学力系	キャリアデザイン・基礎I	1	2			卒業所要単位: 必修36単位、選択92単位以上(英語系・英語系(GSP)4単位以上、教養科目系4単位以上、基幹科目群20単位以上(必修8単位、英語系・英語系(GSP)4単位以上、教養科目系4単位以上を含む)を含む)、合計128単位以上 外国人留学生は、必修40単位、選択88単位以上(教養科目系4単位以上、基幹科目群20単位以上(必修12単位、教養科目系4単位以上を含む)を含む)、合計128単位以上 自由科目の単位は卒業単位には含まれないので注意すること ※注1 外国人留学生は「アカデミック・スキル演習IA」、「アカデミック・スキル演習IB」、「アカデミック・スキル演習IIA」及び「アカデミック・スキル演習IIB」は履修不可、「情報リテラシー」及び「情報リテラシー応用」の単位を必修とする ※注2 外国人留学生以外は自由科目、外国人留学生は必修科目として扱う ※注3 外国人留学生のみ履修可、必修科目として扱う ※注4 英語系・英語系(GSP)から4単位以上を修得すること(外国人留学生を除く) ※注5 外国人留学生のみ履修可			
		キャリアデザイン・基礎II	1	2						
		キャリアデザイン・応用I	2	2						
		キャリアデザイン・応用II	2	2						
		キャリアデザイン・総合I	3	2						
		キャリアデザイン・総合II	3	2						
		インターンシップ	2	2						
		教師論	1	2						
		教育制度論	1	2						
		教育心理学	1	2						
特別支援教育概論(中・高)	1	2								
教育課程論	2	2								
教育方法学	2	2								
教育ICT活用論	2	2	2							
社会科・公民科教育法I	3	2								
社会科・公民科教育法II	3	2								
社会科教育法I	2	2								
社会科教育法II	2	2								
英語科教育法I	2	2								
英語科教育法II	2	2								
英語科教育法III	3	2								
英語科教育法IV	3	2								
情報科教育法I	3	2								
情報科教育法II	3	2								
国語科教育法I	2	2								
国語科教育法II	2	2								
国語科教育法III	3	2								
国語科教育法IV	3	2								
道徳教育の指導法	2	2								
総合的な学習の時間の指導法	3	2								
特別活動論	3	2								
生徒指導論	2	2								
教育相談	3	2								
進路指導論	3	2								
ボランティア論	3	2								
教職基礎演習	2	2								
教職総合演習	3	2								
教職実践演習(中・高)	4	2								
古典文学鑑賞	1	2								
現代文学鑑賞	1	2								
日本文学史	1	2								
文学総合演習	2	2								
古典文学講読	2	2								
漢文	1	2								
書道	1	2								
教育実習(事前・事後指導)	4		1							
教育実習I	4		2							
教育実習II	4		2							
教育学概論	1	2								
博物館経営論	1	2								
博物館資料論	1	2								
博物館資料保存論	1	2								
博物館展示論	1	2								
博物館情報・メディア論	1	2								
博物館教育論	1	2								
博物館学実習I	2	2								
博物館学実習II	3	2								
博物館概論	1	2								
生涯学習論I	1	2								
生涯学習論II	1	2								
考古学	1	2								

別表第2 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科 (2023年度入学生)

群	系列	科目名	年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
2	群	言語と文化	1	2			
		比較文化論	1	2			
		英語文学	2	2			
		英語学概論	2	2			
		Global Communication	2	2			
		異文化理解	2	2			
		English Communication I	1	2			
		English Communication II	1	2			
		Reading I	2	2			
		Reading II	2	2			
		Listening & Speaking I	2	2			
		Listening & Speaking II	2	2			
		英語音声学	2	2			
		Writing & Presentation I	2	2			
		Writing & Presentation II	2	2			
		情報社会と法	1	2			
		知的財産権	1	2			
		情報社会と職業	2	2			
		データサイエンス概論	1	2			
		データベースI	2	2			
		データベースII	2	2			
		統計学概論	2	2			
		データ処理応用	3	2			
		データサイエンス応用	3	2			
		情報社会と経済	1	2			
		ロジスティクスとERP	2	2			
		e-マーケティング	2	2			
		e-ビジネス	2	2			
		ネットワークと社会	2	2			
		e-コマースシステム	2	2			
		マルチメディア	1	2			
		Webデザイン	1	2			
		Webサイト制作	2	2			
		Webアプリ開発	2	2			
		Webサービス開発	3	2			
		グラフィックデザインI	1	2			
		グラフィックデザインII	1	2			
		アニメーション制作	2	2			
		コンピュータグラフィックス	2	2			
		3DCG制作	2	2			
		情報処理概論	1	2			
		情報ネットワーク	2	2			
		情報ネットワーク演習	2	2			
		情報セキュリティ	2	2			
		プログラミング概論	1	2			
		プログラミング基礎	1	2			
		プログラミングI	2	2			
		プログラミングII	2	2			
		プログラミングIII	3	2			
		プログラミングIV	3	2			
		ロジカルシンキング	1	2			
		アルゴリズム	2	2			
		システム設計	3	2			

群	系列	科目名	年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
3	群	英語演習I	1	2			
		英語演習II	1	2			
		総合英語I	2	2			
		総合英語II	2	2			
		情報文化キャリア英語	2	2			
		Project-based Presentation	3	2			
		情報処理入門	1	2			
		情報コミュニケーション論	1	2			
		情報処理応用	2	2			
		ICT活用演習	1	2			
		データ処理基礎	1	2			
		システム開発プロジェクト	3	2			
		情報文化キャリア特講(初級)	1	2			★
		情報文化キャリアI	2	2			
		情報文化キャリアII	2	2			
		情報文化キャリア特講(上級)	2	2			★
		情報社会と文化	2	2			
		情報文化キャリア総合	3	2			★
		基礎ゼミナール	1	2			★
		情報文化基礎	1	2			★
情報文化演習	2	4					
情報文化実習	2	2					
専門ゼミナール	3	4					
卒業研究	4	4					
コミュニケーションデザイン	2			2			
ICTメディア活用プロジェクト	3			2			

★印の科目はコロナ禍後もオンライン授業を継続する可能性のあるオンライン指定科目です。オンライン指定科目であっても対面のみで開講する科目があります。他学科の学生は、2群、3群のオンライン指定科目を履修できません。



別表第2 メディアコミュニケーション学部 子どもコミュニケーション学科(2023年度入学生)

群	系列	科目名	年次	単位数			備考	群	系列	科目名	年次	単位数			備考
				必修	選択	自由						必修	選択	自由	
1群	英語系	英語I	1	2			★	メディア科目群	メディア活用論I	1	2			10修単位を 含む 得	
		英語II	1	2					メディア活用論II	2	2				
		英語III	2	2					こども教材開発論	3	2				
		英語IV	2	2					こども教材開発演習	3	2				
		基幹科目群	海外研修英語I	1	2				コミュニケーション科目群	コミュニケーションの心理学	2	2			
			海外研修英語II	1	2					こどもと読み聞かせ・児童文学	2	2			
			英会話I	1	2					こどもと読み聞かせ・絵本	2	2			
			英会話II	1	2					こどもと読み聞かせ・メディア	3	2			
			情報リテラシーI	1	2					こどもと文学	3	2			
			情報リテラシーII	1	2					こども文学創作演習	3	2			
	ことばと表現(書きことば)		1	2			こども英語活動演習	3	2						
	ことばと表現(話しことば)		1	2			フィリピン科目群	生涯学習論	3	2					
	社会学概論I		1	2				グループ体験	2	2					
	社会学概論II		1	2				環境と教育	2	2					
	法学概論	1	2			社会調査法I		3	2						
	教養科目群	経済学概論	1	2			子ども理解基礎科目群	社会調査法II	3	2					
		政治学概論	1	2				社会調査演習	3	2					
		人文地理学概論	1	2				保育原理	1	2		★			
		自然科学概論	1	2				教育学概論(初等)	1	2		★			
		生物学概論	1	2				教育制度論(初等)	1	2		★			
		哲学概論	1	2				子ども家庭福祉	2	2					
		日本史学概論	1	2				社会福祉	1	2					
		外国史学概論	1	2				子育て支援	2	1					
		自然地理学概論	1	2				社会的養護I	2	2					
		日本思想概論	1	2				保育者論	1	2					
		科学史概論	1	2			保育の心理学	1	2						
		日本国憲法	1	2			子ども家庭支援の心理学	1	2						
		国際社会と日本	1	2			幼児理解	3	1						
		現代の社会福祉	1	2			子どもの保健	2	4						
		韓国語I	1	2			子どもの健康と安全	3	1						
		韓国語II	1	2			子どもの食と栄養	3	2						
		中国語I	1	2			子ども家庭支援論	3	2						
	中国語II	1	2			実践支援科目群	教育・保育課程論	2	2		★				
	フランス語I	1	2				幼児と健康	2	2						
	フランス語II	1	2				幼児と人間関係	2	2						
	多文化理解	1	2				幼児と環境	2	2						
	アジア・オセアニアの文化	1	2				幼児と言葉	2	2						
	異文化コミュニケーション	1	2				幼児と表現	2	2						
	海外体験研修(東南アジア)	1	2				保育内容総論	2	1						
	異文化理解研修	1	4				健康の指導法	2	1						
	健康・スポーツ科学	1	2				人間関係の指導法	2	1						
	地域ボランティアプログラムA	1	2				環境の指導法	2	1						
	地域ボランティアプログラムB	2	2			言葉の指導法	2	1							
	地域ボランティアプログラムC	3	2			表現の指導法	2	1							
	人間力向上科目群	文学基礎論I	2	2			実技科目群	教育方法学(初等)	2	2					
		文学基礎論II	2	2				乳児保育I	3	2					
		国語表現I	1	2				乳児保育II	3	1					
国語表現II		1	2			特別支援教育概論(初等)		3	2		★				
古典文学鑑賞		1	2			社会的養護II		3	1						
現代文学鑑賞		1	2			教育相談支援		3	2						
日本文学史		1	2			身体表現の技術		2	2						
文学総合演習		2	2			声楽表現の技術A		1	2						
古典文学講読		2	2			声楽表現の技術B		2	2						
人間学演習I		1	2			器楽表現の技術A		1	2						
人間学演習II		1	2			器楽表現の技術B	2	2							
キャリアデザイン・基礎I		1	2			造形表現の技術A	1	2							
キャリアデザイン・基礎II		1	2			造形表現の技術B	2	2							
キャリアデザイン・応用I		2	2		★	絵画表現の技術A	1	2							
キャリアデザイン・応用II		2	2			絵画表現の技術B	2	2							
キャリアデザイン・総合I		3	2			言語表現の技術	2	2							
キャリアデザイン・総合II		3	2			総合表現演習	3	2							
インターンシップ	2	2			保育実習IA	3	2								
2群	実践支援科目群	保育実習IB	3	2			実習	保育実習指導IA	3	1					
		保育実習指導IA	3	1				保育実習指導IB	3	1					
		保育実習指導IB	3	1				保育実習II	3	2					
		保育実習II	3	2				保育実習指導II	3	1					
		保育実習指導II	3	1				保育実習III	3	2					
		保育実習III	3	2				保育実習指導III	3	1					
		保育実習指導III	3	1				教育実習(幼稚園)	4	4					
		教育実習(幼稚園)	4	4				教育実習事前・事後指導(幼稚園)	4	2					
		教育実習事前・事後指導(幼稚園)	4	2				教育・保育実践演習	4	2					
		教育・保育実践演習	4	2				3群	基礎ゼミナール	1	2				
	基礎ゼミナール	1	2			こどもコミュニケーション基礎	1		2						
	こどもコミュニケーション基礎	1	2			こどもコミュニケーション論	1		2						
	こどもコミュニケーション論	1	2			こどもコミュニケーション演習	2		2						
	こどもコミュニケーション演習	2	2			こどもコミュニケーション実習	2		1						
	こどもコミュニケーション実習	2	1			学校インターンシップ実習I	1		2						
	学校インターンシップ実習I	1	2			学校インターンシップ実習II	2		2						
	学校インターンシップ実習II	2	2			専門ゼミナール	3	4							
専門ゼミナール	3	4			卒業研究	4	4								
卒業研究	4	4													

卒業所要単位: 必修79単位、選択49単位以上(選択必修10単位以上(必修2単位を含む)を含む)、合計128単位以上

★印の科目はコロナ禍後もオンライン授業を継続する可能性のあるオンライン指定科目です。オンライン指定科目であっても対面のみで開講する科目があります。他学科の学生は、2群、3群のオンライン指定科目を履修できません。

<履修登録における注意事項>

◆キャップ制

学生の学修時間確保を目的とし、履修できる単位数に上限を設ける制度のことです。

キャップ制をオーバーして履修登録した場合、超過分の科目は削除されます。

1年次～4年次の前期・後期各 26 単位以下、かつ年間 49 単位以下（通年科目は前期と後期に半分ずつ単位を分割して計算）

前期に 26 単位履修登録した場合、後期は 23 単位以下しか履修登録できません。前期、後期それぞれ 24 単位程度を目安に、バランス良く履修してください。3 年次終了時点で自由科目を除く修得単位が 80 単位に満たないような場合、キャップ制の制限により 4 年間では卒業できなくなる場合があります。

なお、前年度修得単位数が 48 単位以上あり、すべて評価が「秀」で、かつ学科が許可をする学生について、キャップ制に年間 3 単位を加算し、前期・後期各 26 単位以下、かつ年間 52 単位以下の履修を可能とします。

希望者は履修登録期間中に教務課窓口にて申請してください。

<キャップ制対象外科目一覧>

科目区分	科目詳細
自由科目	時間割等確認のこと。
集中講義科目	時間割等確認のこと。
教職課程の指定科目	教師論、教育制度論、教育心理学、教育課程論、教育方法学、特別支援教育概論（中・高） 保育者論、教育制度論（初等）、保育の心理学、 保育課程論（2019 年度以降入学生は教育・保育課程論）、教育方法学（初等）
海外研修科目 ※2	<2017 年度以前入学生> ニュージーランド研修 I ※1、ニュージーランド研修 II、ニュージーランドスカラシップ、 長期海外研修 <2018 年度以降入学生> 海外体験研修、海外体験研修（中国）、異文化理解研修※1、語学研修（オセアニア）、 語学研修（欧米）、スカラシップ、長期海外研修（オセアニア）、長期海外研修（欧米）、 Study Abroad Program（2020 年度以降入学生のみ）
海外研修に係る 英語科目	<2019 年度以前入学生> ニュージーランド研修英語、Step-Up English <2020 年度以降入学生> 海外研修英語 I ※3、海外研修英語 II ※3

3

※1 2021 年度以前入学のこどもコミュニケーション学科では、科目名が「異文化理解研修」「ニュージーランド研修 I」ではなく、「海外こども事情体験 A（ニュージーランド）」となります。

※2 海外研修科目については、履修取消上限の 4 科目制限に含まれません。

※3 2021 年度以前入学のこどもコミュニケーション学科では科目名が「海外研修英語 I」「海外研修英語 II」ではなく「ニュージーランド研修英語」「Step-Up English」となります。

◆他学科選択科目

他学部・他学科（こどもコミュニケーション学科を除く）の 1 群・2 群科目のうち、自分の学科で開講されていない選択科目を在学中に単位互換科目と合わせて 40 単位の履修が上限となります。（人間心理学科の学生は 20 単位まで、経営社会学科の 2019～2020 年度入学生は 30 単位、経営社会学科の 2021 年度以降入学生は 24 単位まで履修できます）

他学科選択科目を履修する際は、「他学科選択科目履修申請書」により担当教員の許可を得てください。許可印をもらった申請書は各自保管してください。

なお、2023 年度以降入学のマス・コミュニケーション学科、情報文化学科の学生の中から選抜される「21 世紀メディアパーソナル育成プログラム」参加学生に限り、指定された他学科 3 群科目を履修することが可能となります。

※こどもコミュニケーション学科の 2023 年度以降入学生は、情報文化学科 2 群科目「データサイエンス概論」に限り他学科選択科目を履修することができます。2022 年度以前の入学生は他学科選択科目を履修できません。

江戸川大学「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」取組概要

本プログラムを通じて身につけることができる能力

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できる。

プログラム修了のための必須科目

右記を除く
全学部全学科の学生

メディアコミュニケーション学部
こどもコミュニケーション学科 2022年度入学生

	データサイエンス概論 (2単位)	情報リテラシー I(2単位)	情報リテラシー II(2単位)	こどもコミュニケーション論 (2単位)
(1) 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	◎	◎		◎
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	◎	◎		◎
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	◎	◎		◎
(4) 活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	◎	◎		◎
(5) 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	◎		◎	

修了要件

学部学科ごとに、表にある科目全ての単位を修得する



修了証

必須科目「データサイエンス概論」以外のオプション科目
「アルゴリズム」「プログラミング基礎」「データベースI」

より高度なレベルの学修を目指す場合、オプション科目「アルゴリズム」に加えて「ロジカルシンキング」「データ処理応用」「データサイエンス応用」の履修を推奨
¹³（こどもコミュニケーション学科を除く全学部・全学科学生が履修可能）